

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
27-182	高等学校	芸術	美術 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美 I 305	高校生の美術 1		

I. 編修の趣旨及び留意点

- 本教科書は教育基本法第一条に示す教育の目的及び第二条に示す教育の目標に則り、「高等学校学習指導要領第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第4 美術 I」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして編修に努めた。
- 本教科書の編修に当たっては、特に「高等学校としての美術の学びを実感し、美術を通して生活や社会と豊かに関わる力を養うことができる教科書」を目指し、以下の3事項を重視して新しい教科書を編修することを趣旨とした。

(1) 中学校美術との学びの連続性がある教科書

- ・中学校美術の学習を踏まえ、「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」からの学びを明確にした上で、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞の各題材ページを作成した。加えて、形や色彩、イメージなどの〔共通事項〕に配慮して感じ取る視点や考える視点などを盛り込んだ。

(2) 高等学校美術としての学びが実感できる教科書

- ・高等学校美術としての学びが実感できるように次のような工夫をした。
 - ①巻頭オリエンテーションの役割を明確にし、美術とは何かを考えたり新たな視点でものを見たりするなど、課題をもちながら教科書の各題材を学んでいけるようにした。
 - ②各題材に、学習のねらいを短い言葉で分かりやすく記載するとともに、高校生の作品を掲載し、表現意図が分かる作者の言葉を添えた。
 - ③対象や心の中を深く見つめる、作家の生き方と美術を考える、日本の美術作品や文化を理解するなど、高校生の発達にあった深みのある題材を配列した。

(3) 生活や社会と豊かに関わる力を育む教科書

- ・身近な生活の中にあるものや場面、風景などを見つめ直したり、生活の中にあるデザインなどについて考えたりできるように、題材の設定や図版の選定に配慮した。
- ・デザイナーのインタビューを掲載したオリエンテーション、自分自身の生活と美術との関わりを意識させるページなど、生活や社会と美術との関わりが意識できるように工夫した。

II. 編修の基本方針

- 本教科書においては、教育基本法第二条に示される教育の目的を達成するために、七つの具体的な基本方針を定め、編修に努めた。

・二条第一号は①と②に、第二号は③に、第三号は④に、第四号は⑤に、第五号は⑥と⑦に対応している。

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

○教科書編集に関する具体的な基本方針

①幅広い知識と教養を身に付ける

弊社が発行する従来の教科書と比較してページ数を増やし、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞について幅広く学べるように内容やバランスを考慮し、美術史や技法等のページも充実を図った。

②豊かな情操と道徳心を培う

芸術としての美術の学びを重視し、表現することの意義や作者の心情などを理解できるように題材や記述内容を工夫した。これにより、自己や他者の考えや作品を大切に作る心、よさや美しさを大切な価値とし、それを求めようとする心などが育成されることをねらいとした。

③個人の価値を尊重し、創造性を培い、勤労を重んずる態度を養う

主題の生成や作者の意図と表現の工夫を重視し、生徒が感性や創造性を発揮しながら自己の価値意識をもって表現や鑑賞ができるように題材や記述内容を工夫した。また、時間をかけて集中して制作に取り組む中で、努力することのよさや達成感が味わえるような授業を目指す教科書づくりに配慮した。

④正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力、社会形成に参画する態度を養う

鑑賞活動や映像メディア表現での共同制作において、他者との学び合いや話し合いの場を通して、学びの中から正義と責任、男女の平等、自他の敬愛を重んずる心情を培えるようにした。また、公共の場で用いられるデザインを考えることで、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるような題材を盛り込んだ。

⑤生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する

自然のよさや美しさを見つめ直したり、自然との共生や環境との調和から美術を考えたりする題材を設定し、自然を大切にし、美しい環境を保全していく態度の形成に寄与する教科書づくりに配慮した。

⑥伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する

日本や西洋の美術の鑑賞題材の充実を図るとともに、特に屏風絵などの生活に息づく日本美術や浮世絵などについては複数のページを割り当て、知識等を学びながらよさが実感できるように解説を充実させた。

⑦国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

自己の表現とともに他者の表現も大切に作る心情や、自国の文化とともに他国の文化を尊重する態度などを育成することで、美術による人間理解や国際理解が深められ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことのできる内容にした。

Ⅲ. 対照表

○本教科書は学習指導要領に示されている内容の構成に基づき、生徒の学習のしやすさを考慮してオリエンテーション、絵画・彫刻など（表現・鑑賞）、デザイン（表現・鑑賞）、映像メディア表現（表現・鑑賞）、資料に分類している。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や留意点	該当箇所
オリエンテーション	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 自らの信念を貫いた芸術家の生涯に触れ、美術の意味を考えるを通して自身の価値観について考えることは、創造性を培い、自主自立の精神を養うことに通じる。生徒にその機会を与えるべく編修に努めた（第二号）。</p> <p>③ 西洋と日本という異なる地域で、作品の評価が変化した二人の画家を取り上げ、我が国と他国の文化や価値観を尊重する態度を養えると考え、題材を設定した（第五号）。</p>	<p>①p. 4・5、p. 6・7</p> <p>②p. 4・5</p> <p>③p. 4・5</p>
絵画・彫刻など	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 一人一人のよさや個性が尊重され、その能力を十分発揮する中で、相互に創造性を高め合うことができるような表現と鑑賞の活動を充実させた（第二号）。</p> <p>③ 自他を見つめ、それぞれの個性を尊重し生命を尊ぶ態度や、身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、環境の保全に寄与する態度を育む機会となる内容を設けた（第四号）。</p>	<p>①p. 6～65</p> <p>②p. 6～65</p> <p>③p. 10・11、p. 14～17、p. 18～21、p. 42～43、p. 56～59、p. 62・63</p>
デザイン	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 第一線で活躍するデザイナーの考え方に触れることで、デザインの目的やデザイナーの思考を理解し、デザインの仕事が日常生活と密接していることや、デザインの仕事に対する意識を高められるよう配慮した（第二号）。</p> <p>③ 身近な生活から広く社会全般を見つめ、課題を発見し、造形を通して課題を解決する能力を培うことは、社会正義と自らの責任を重んじ、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うことになる。デザインの表現と鑑賞の活動を通して、その能力を培えるよう配慮した（第三号）。</p> <p>④ 身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、造形に生かす力を培うとともに、環境の保全に寄与する態度を育めるよう配慮した（第四号）。</p>	<p>①p. 68～89</p> <p>②p. 68・69</p> <p>③p. 68～75、p. 78～89</p> <p>④p. 80・81、p. 88・89</p>
映像メディア表現	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 身近な生活から広く社会全般を見つめ、課題を発見し、造形を通して課題を解決する能力を培うことは、社会正義と自らの責任を重んじ、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うことになる。映像メディア表現の表現と鑑賞の活動を通して、その力を培えるよう配慮した（第三号）。</p>	<p>①p. 90～99</p> <p>②p. 96・97</p>

映像メディア表現	③ 日本の伝統的な美術作品が、現代の技術により新たな魅力をもつ作品として生まれ変わることを知ることは、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養うことになる。映像作品の鑑賞を通じてその態度を養えるよう配慮した（第五号）。	③p. 98・99
資料	<p>① 我が国及び他国の美術文化の歴史を知ることは、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに、我が国の伝統と文化を尊重し、他国を尊重して国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことに通じる。そのようなねらいをもって、美術史に関する資料を豊富に設定した（第一号、第五号）。</p> <p>② 美術で用いる描画材料について知り、表現技術の習得に励むことは、人類の長い歴史の中で培われてきた知識や教養を身に付け、美や人間存在の探求という真理を求める態度を養うことに通じる。また、表現の多様性を知ること個人を尊重し、創造性を培うことに通じると考え、表現技法に関する資料を豊富に設定した（第一号、第二号）。</p> <p>③ 美術の授業で学んだ力を発揮できる場面や、将来の職業選択につながる内容を紹介し、勤労を重んじる態度を養えるよう配慮した（第二号）。</p>	<p>①p. 101～121</p> <p>②p. 126～150</p> <p>③p. 153</p>

IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 学習の課題を設置

- ・表現題材に具体的な表現課題を設置し、課題から生まれた生徒作品や生徒の言葉などを記載した。表現活動における発想や構想のプロセスを参考にできるよう努めた。

(2) 学習内容の関連を重視

- ・教科書を学習資料として一層使用しやすくし、生徒の学習効果が高まることを期待して、題材の内容や掲載している作家、作品などに関連する項目が他のページに掲載されている場合、関連ページを参照できるようにリンクを記載した。

(3) 他教科との関連を重視

- ・国語や英語、日本史や世界史などの教科書に掲載されている美術作家や作品、家庭科で取り上げられている住生活のデザイン、化学の炎色反応など、他教科で取り上げられている内容を研究し、積極的に教科書の紙面に反映させることで、他教科との関連を図り、生徒の学びが一層深まるように配慮した。

(4) 言語能力の育成

- ・鑑賞活動では生徒同士の意見交換が深まるよう、鑑賞のポイントなどを掲載し、話し合いを促すような工夫を凝らした。
- ・デザインの活動では、制作者の思考のプロセスを言語と図で分かりやすく掲載し、自分の考えを言語化し、伝えることの大切さとその技術について学べるよう配慮した。

(5) 社会との連携

- ・地域社会や作家、美術館などの公共施設との関連を視野に入れた学習活動を紹介するページを設け、生徒の学習意欲が向上するように工夫した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
27-182	高等学校	芸術	美術 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美 I 305	高校生の美術 1		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

○本教科書は「高等学校学習指導要領 第 1 章 総則」、及び「第 2 章 第 7 節 芸術」、「第 2 款 第 4 美術 I」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深めることができるよう、以下の各項目において特に意を用いて編修した。

(1) 実態調査を基にした題材設定

・幅広い創造活動を体験し、豊かな美的体験ができるよう、全国で行われている授業の実態を調査し、取り組みやすい題材から応用的な題材まで、豊富な事例を用意した。

①多くの学校で取り組まれている、身近なもの、風景、ポスターなどを描く題材では、4 ページ構成にして参考作品を多く提示するとともに、高校生の作品とその制作意図を掲載し、主題性のある表現を追求できるようにした。

②視点と描き方や、光とかげ、大きさをイメージして見るなど、いろいろな観点からの鑑賞題材を配列し、見方や感じ方、考え方が深まるようにした。

(2) 参考作品を幅広く豊富に掲載

・生涯にわたり美術を愛好する心情を育てられるよう、身近な内容から普遍的な価値をもつ美術作品まで幅広く掲載し、多方面から興味をもって学習に取り組めるよう留意した。

①身近なものや人物、風景などを見つめ直す題材や、身の回りのデザインを取り上げた題材など、身近な自然や生活の中から題材を設定し、生活の中で美術を意識できるようにした。

②西洋の著名な作家や日本の美術などについて、複数の図版や丁寧な解説を加えることにより、興味・関心や理解が深まるようにした。

(3) 明確な学びの視点と学習のねらい

・感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばせるよう、各題材に学びの視点を明確に示し、生徒が意図をもって学習に取り組めるよう留意した。

①題材の本文等に見方や感じ方、考え方などの学びの視点を盛り込み、見方や感じ方を豊かにしながら、新たなものの捉え方や主題生成などができるようにした。

②各題材に、分かりやすく短い言葉で学習のねらいを明確に示した。

(4) 美術史の充実

・美術文化についての理解を深められるよう、各題材では学習内容の参考となる美術作品を、美術史の長い

歴史の中から精選し、掲載した。

①題材の参考作品を掲載する際に、美術史的な観点から著名な作家や作品に配慮して作品を選択した。

②日本や西洋の美術の鑑賞題材の充実を図るとともに、特に屏風絵などの生活に息づく日本美術や浮世絵等の題材ページについて、知識等を学びながらよさが実感できるように図版や解説を充実させた。

(5) 技法・色彩資料の充実

・高等学校において美術を学習する上で、身に付けておきたい材料や用具についての知識、表現技法などを、幅広く取り上げた。

①各題材を学習する上で必要になる固有な技法については、当該のページで解説し、材料用具の扱いや制作のプロセスなど、様々な表現の基礎的な内容となる技法については資料ページに掲載するなど、授業での使いやすさに配慮した。

②色彩について知識理解を深め活用するための資料を巻末にまとめた。色相環は中学校との関連に配慮してPCCSの12色相環と、実社会での使用されることが多いマンセルの20色相環を掲載した。色相環のページは片観音で本の外側に広げられるように設定し、どのページを学習していても、いつでも参照できるように工夫した。

(6) 学習意欲向上への工夫

・生徒が教科書を開くことに楽しみを覚え、高い意欲で学習に取り組めるよう、様々な工夫を施した。

①実際の作品の大きさを体感し、作家の表現の工夫を読み取ることができるよう、原寸大で作品を掲載するページを複数設定した。また、両観音で開くページを複数設け、大画面で作品を鑑賞したり、美術史の流れを把握したりすることができるよう配慮した。

②作品を掲載している作家をイメージしたイラストと作家の言葉を掲載し、作家の考えに触れられるよう工夫した。

③日本の伝統的な美術文化である判じ絵をクイズ形式で掲載したり、錯視の図版を掲載したりすることで、楽しみながら、美術が日常の生活に潤いを与える役割を果たしていることを学べるようにした。

(7) 「美術館に行こう」と「これからの私と美術」

・美術館を身近な存在として感じ、行く機会を増やしてもらうことを願って、「美術館に行こう」のページを設定した。美術館での作品鑑賞の方法やマナーなどのほか、平素は目にすることのできない美術館の機能や学芸員の仕事内容を写真とイラストで紹介したり、美術館の楽しみ方としてミュージアムショップやカフェレストランなどの利用を紹介したりするなど、美術館に対する興味を深められるよう工夫した。

・生徒が美術を学ぶことの意義について、日常生活や将来像との関係から実感をもって把握できるよう、「これからの私と美術」のページを、親しみやすいイラストレーションで巻末に例示した。

II. 対照表

学習指導要領の内容の構成			
領域	A 表現	事項	
		(1) 絵画・彫刻	ア 主題を生成する。 イ 創造的な表現の構想を練る。 ウ 材料や用具の特性を生かす。 エ 表現方法を工夫し、主題を追求して表現する。
		(2) デザイン	ア 主題を生成する。 イ 創造的な表現の構想を練る。 ウ 材料や表具の特性を生かす。 エ 表現方法を工夫し、目的や計画を基に表現する。
	(3) 映像メディア表現	ア 主題を生成する。 イ 視覚的要素を工夫して表現の構想を練る。 ウ 用具の特性を生かす。 エ 表現方法や編集を工夫して表現する。	
	B 鑑賞	ア 作品に対する見方や感じ方、考え方などをもち、理解を深める。 イ 映像メディア表現の多様な表現効果を感じ取り、特質を理解する。 ウ 自然と美術とのかかわり、美術の働きについて理解を深める。 エ 美術文化について理解を深める。	

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			該当箇所
		内容		内容の取扱い	
		A 表現	B 鑑賞		
オリエンテーション	美術とは何か		アエ	(4) (5)	p. 2・3
	見る 感じ取る 考える 表す		アウエ	(1) (4) (5)	p. 4・5
(1) 絵画・彫刻	身近なものを描く	アイウエ	アエ	(1) (2) (3)	p. 6～9
	植物を描く	アイウエ	アウエ	(1) (2) (3)	p. 10・11
	視点と表し方		アウ	(1) (2) (3)	p. 12・13
	私の見付けた風景	アイウエ	アウエ	(1) (2) (3)	p. 14～17
	人物を描く	アイウエ	アウ	(1) (2) (3)	p. 18～21
	視覚のトリックを生かして	アイウエ	ア	(1) (2) (3)	p. 22・23
	想像を形に	アイウエ	アイ	(1) (2) (3)	p. 24・25
	日本美術		アウエ	(1) (4) (5)	p. 26～29
	浮世絵版画の魅力		アエ	(1) (4) (5)	p. 30～35
	版で表す	アイウエ	アエ	(1) (2) (3)	p. 36・37
	墨表現の可能性	アイウエ	アウエ	(1) (2) (3)	p. 38・39
	漫画の表現	アイウエ	アエ	(1) (2) (3)	p. 40・41
	光を捉える		アエ	(1) (4) (5)	p. 42・43
	大きさを意識して		アエ	(1) (4)	p. 44～50
	作家探究 レオナルド・ダ・ヴィンチ		アエ	(4)	p. 51～53
	彫刻の魅力		アエ	(4)	p. 54・55

	生命感や存在感を表す	アイウエ	アエ	(1) (2) (3) (7)	p. 56～59
	抽象彫刻で表す	アイウエ	アエ	(1) (2) (3) (7)	p. 60・61
	環境を彩る造形		アウエ	(1) (4) (5)	p. 62・63
	祈りの形		アウエ	(1) (4) (5)	p. 64・65
(2) デザイン	デザインの世界		アウエ	(1) (4)	p. 66・67
	私の考えるデザイン		アウ	(1) (4)	p. 68・69
	ポスターで伝える	アイウエ	アウ	(1) (2) (3)	p. 70～73
	サインのデザイン	アイウエ	アウ	(1) (2) (3)	p. 74・75
	イラストレーションの魅力		アウ	(1) (4) (5)	p. 76・77
	キャラクターのデザイン	アイウエ	アウ	(1) (2) (3)	p. 78・79
	生活を彩る模様	アイウエ	アウエ	(1) (2) (3)	p. 80・81
	パッケージのデザイン	アイウエ	アウ	(1) (2) (3)	p. 82・83
	暮らしの中の「使う」デザイン	アイウエ	アウ	(1) (2) (3)	p. 84・85
	デザインとテクノロジー		アウ	(1) (4) (5)	p. 86・87
	作家探究 アントニ・ガウディ		アウエ	(1) (4)	p. 88・89
(3) 映像メディア表現	写真表現	アイウエ	アイウ	(1) (2) (6)	p. 90～93
	アニメーションの手法	アイウエ	アイウ	(1) (2) (3) (7)	p. 94・95
	映像で伝えるメッセージ	アイウエ	アイウ	(1) (2) (3) (7)	p. 96・97
	若冲と今を結ぶ		アイエ	(1) (4) (5)	p. 98・99
資料	西洋の美術			(4)	p. 101・102 p. 107～113
	美術史年表			(4) (5)	p. 103～106
	日本の美術			(4) (5)	p. 114～120
	近代デザイン史			(4) (5)	p. 121・122
	映像メディア史			(4) (5)	p. 123・124
	さまざまな描画材料			(1) (2) (3) (7)	p. 126
	いろいろな絵の具			(1) (2) (3) (7)	p. 127
	鉛筆デッサン			(1) (2) (3) (7)	p. 128～131
	水彩画を描く			(1) (2) (3) (7)	p. 132・133
	油絵を描く			(1) (2) (3) (7)	p. 134・135
	日本画を描く			(1) (2) (3) (7)	p. 136・137
	アクリル絵の具で描く			(1) (2) (3) (7)	p. 138
	アクリルガッシュ絵の具で描く			(1) (2) (3) (7)	p. 139
	版画の種類			(1) (2) (3) (7)	p. 140
	文字の基本			(1) (2) (3) (7)	p. 141
	写真の基礎			(1) (2) (6) (7)	p. 142・143
	アニメーションの基礎			(1) (2) (3) (7)	p. 144
	伝える映像表現			(1) (2) (3) (6) (7)	p. 145
	美の秩序			(1) (4) (5)	p. 146・147
	色彩			(1) (4) (5)	p. 148～150
	美術館に行こう			(1) (4)	p. 151・152
	これからの私と美術			(1) (4)	p. 153